

総務消防常任委員会会議録

- 1 日 時 令和6年5月27日（月）
午後1時28分～午後2時40分
- 2 場 所 第4委員会室
- 3 出席委員 委員長 菊地 忍 副委員長 二階堂 充
委員 寺嶋 雅子 委員 大久保主計
委員 吉田 良 委員 郷内良治
委員 大泉 徳子
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明のため 企画部長 小平 英俊
出席した者 D X 推進室長 成田 利 顕
D X 推進室長補佐 新開 潤 一
D X 推進室主査 今野 雅 人
- 6 事務局職員 主 査 石 田 ゆ い
- 7 付議事件
 - (1) 名取市D X推進ロードマップ（地域版）の概要について
 - ① スマートストアについて
 - ② 名取市デジタル地域通貨「なとりコイン」について
 - ③ 名取市公式ポータルアプリ「ナトぽた」について

午後 1 時 2 8 分 開 会

○委員長（菊地 忍） 出席委員は、定足数に達しておりますので、委員会条例第 14 条の規定により委員会は成立いたしました。

ただいまから、総務消防常任委員会を開会いたします。

これより、本日の会議を開きます。

本日の会議は、お手元に配付の委員会次第書のとおりであります。

この際、諸般の報告をいたします。

本日の会議に係る一切の資料を、お手元に配付しておりますので御了承願います。

これをもって諸般の報告を終わります。

それでは、付議事件の（１）名取市ＤＸ推進ロードマップ（地域版）の概要についてを議題といたします。

初めに、本日の進め方について、説明いたします。

まず、執行部より本日の説明要請事項について、すべて御説明いただき、その後、委員各位より質疑をお受けする形で進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

休憩をして進めてまいります。暫時、休憩いたします。

午後 1 時 2 8 分 休 憩

＊休憩中の要旨

○名取市ＤＸ推進ロードマップ（地域版）の概要について
執行部より、各項目について説明をした。内容は以下のとおり。

（ＤＸ推進室）

（１）名取市ＤＸ推進ロードマップ（地域版）の概要について

１．計画策定の趣旨

①本ロードマップの位置づけ

総務省／内閣府、宮城県、名取市第六次長期総合計画および名取市情報化推進計画を踏まえ、地域のＤＸ化を主眼として策定。

②計画期間

第１期を名取市ＤＸ推進ロードマップ（庁内版）の終了年度に合わせた令和５年度から令和７年度までの３年間とし、名取市第六次長期総合計画

で顕在化している具体的な課題について解決を図る時期と位置づけ、令和5年度から実施する。

第2期のDX推進については、本ロードマップ第1期及び名取市DX推進ロードマップ（庁内版）の実施状況、国・県の動向を踏まえ、令和5年度より統一的な市全体のDX推進計画の検討を開始し、令和8年度からの実施を目指す。

2.地域DXの目指す姿、基本方針、取組内容

・目指す姿（ビジョン）

デジタル技術を活用し多様な主体と共に誰もが豊かに暮らせる社会の実現

・基本方針、取組内容

方針1 市民の利便性向上

→取組内容：①公共交通の最適化、②情報発信ツールの最適化、③デジタルデバイド対策

方針2 社会課題の解決、新たな価値創造

→取組内容：④地域社会活性化支援、⑤データ活用による最適な施策の実行、⑥産業や社会のイノベーションの創出

①スマートストアについて

→「移動・買い物困難者への支援」および「商工業の振興」、「地域産業の生産性向上」を目的とし、将来的な人口減少と少子高齢化による働き手不足、スーパーや小売店の撤退といった問題を見据え、スマートストア（無人店舗）を実証導入し、運営の有効性を検証する。

1 現状の課題

- ・郊外地域における小売店等の撤退
- ・商業施設が近隣にないエリアにおける、買い物困難者の発生
- ・移動困難者への買い物支援が必要
- ・将来的な人口減少による働き手不足が見込まれる

2 事業の進捗

（令和5年度）

令和5年 12月1日から市役所1階ポケットギャラリー内にスマートス

トアをオープンし、定期的に事業者と経営に関するデータ分析等を行いながら、商品の入替えや仕入先の拡大等を行った。

(令和6年度)

シーズンに合わせ、季節特性に合わせた商品の仕入れや、本市の地場産品の仕入れを行っている。また、令和5年度に引き続き、売上げや利用者に関するデータ分析を行っている。

3 今後の課題、展望

令和5年12月に始まったばかりの事業であり、現時点では、ユーザーが使いやすいかどうか、という視点で実証実験を継続していく。購買データの蓄積・分析により売上増加のための取組を行い、持続可能な取組への転換・買い物困難地域への支援策の検討へとつなげていく。

②名取市デジタル地域通貨「なとりコイン」について

→デジタル地域通貨の仕組みを活用したインセンティブ付与等により、「地域経済循環」、「住民の行政参画促進」、「市民の利便性向上」につなげることを目的とし、地域内での消費喚起、キャッシュレス化の推進、地域企業の魅力向上を図る。

1 現状の課題

- ・行政施策参画へ向けた取り組みの強化
- ・協働の意識づくりの醸成
- ・住民による地域の活性化や賑わいづくりに向けた活動、地元企業の利用機会の促進

2 事業の進捗

(令和5年度)

システム構築事業者のプロポーザル公募、デジタル地域通貨検討会の設立、愛称募集、事務局等運営業務、加盟店向け説明会等を行った。

(令和6年度)

名取市デジタル地域通貨システム運用業務、事務局等運営事務、実証実験モニター募集、加盟店向け説明会、利用者説明会、実証実験などを行い、7月から本格稼働の予定。

3 今後の課題、展望

なとりコインの魅力向上には、「名取市地域応援プレミアム商品券事業」や「名取スマイル商品券事業」と同様の200店舗に加盟いただくことを目指す。また、行政施策参加者等へのインセンティブ（行政ポイント）付与、ボランティアや地域活動等参加促進への活用に向けた検討を行っていく。

③名取市公式ポータルアプリ「ナトぽた」について

→行政情報へのアクセス環境を整理・改善による住民の「施策認知度の向上」や「行政への市民参画」の促進を目的とし、住民の行政情報へのアクセスを容易にするとともに、住民との双方向のコミュニケーションを推進する。また、デジタルサービス間の連携による利便性向上を図る。

他の情報発信媒体との連携により、情報発信に係る職員の稼働削減を図る。

1 現状の課題

- ・行政情報を取得するためには、住民自らが情報を探しに行かなければならない
- ・住民の施策参加促進の仕組みが必要
- ・多岐にわたる情報発信媒体を通じた住民への行政情報発信やPRに伴う負担の発生

2 事業の進捗

（令和5年度）

システム構築事業者のプロポーザル公募、情報発信プラットフォーム検討部会の設立（構築内容の協議・確認）、「ナトぽた」の構築、愛称を募集し、令和6年3月1日にリリースを行った。

（令和6年度）

運用保守管理、追加・拡張機能の検討、周知・PR活動を行う予定。

3 今後の課題、展望

市民の利便性向上には、アプリ自体に魅力的で便利な機能の整備が必要であり、県や近隣市町村から情報を収集し、市民にとって便利な機能を追加する。市民へのアプリ普及と利用率向上のためには、使い方の啓発

やトレーニングが必要。「ナトぽた」ダウンロードへのインセンティブとして「なとりコイン」の付与を予定。市民のニーズや改善点を把握するため、アプリ利用者からの意見やフィードバックを収集する仕組みの構築も検討する。

アンケート機能を市民の意見提言などを吸い上げる双方向のコミュニケーションツールとして活用することで、行政への市民参画の促進を図ることができるかと捉えている。また、全市民に「ナトぽた」を利用いただければ、迅速な情報提供や広報誌発行・配布のコスト削減につながると捉えている。

<質疑応答>

（質）スマートストアについて、場所がポケットギャラリーになった理由は、なぜ売店跡地ではないのか。

（答）売店跡地も考えたが、セルフレジの設置、QRコードを読む場所や商品数も考え、手狭であったため、ポケットギャラリーになった。市議会議員選挙のときは御迷惑をかけたので、投票所は1階にするようにしていきたい。

（質）商品について、元々売店で売っていた地図や名取市史など、今後の商品の拡大は。

（答）無人店舗なので、バスの回数券など金券等は難しいが、販売可能なものは要望に合わせて検討する。

（質）スマートストアのデータ分析について、市民の生の声は調査しているのか。

（答）令和6年2月にアンケート調査をして、その結果を踏まえて商品を入れ替えている。今後も何回か行う。

（質）最近は業者の方が店舗にいないが、どういう体制なのか。

（答）令和5年12月から令和6年2月までは使い方等の説明のため、事業者側で1名配置していたが、令和6年3月からは無人店舗として運営している。

（質）スマートストアは店舗がない所への設置を見据えていると思うが、今後生鮮食品は考えているのか。今はニーズがないと思うが、今後どこかで試す予定はあるのか。

（答）現在のところ予定はしていないが、今後事業者と可能かどうか相談する。

(質) なとりコインについて個人から個人へ付与ということだが、お金に代わるものなので、何か具体的な考えは決まっているのか。

(答) コミュニティ活動促進に対する付与を想定しているが、具体的な手法については、今後検討する。

(質) ナトぼたの中に入っているアプリは何に使えるものなのか表示したほうがよい。また、ポイ活などをするとダウンロード数が増えるかもしれないがどうか。

(答) アプリのアイコン表示の変更は業者と相談の上検討する。ポイ活のような形でインセンティブを付与していくことも考えたい。

(質) お年寄りを使い方が分からないことがあると思う。戸惑いもある。いつでも誰でも、行って相談できる場所などの検討はないか。

(答) デジタルディバイド解消は重要と捉えている。令和6年5月から、要予約だが、月・水・金曜日に個別相談の対応もしている。5月の広報なとりに掲載して募集しており、今のところ5～6件申請があった。今日も市民から相談があった。飛び込みで来る場合もある。

(質) スマートストアに来たついでにDX推進室へ聞きに行く人もいるかもしれないが、予約した人しか受け付けていないのか。

(答) 予約制とはしているが、飛び込みで来た人を拒むことはしない。

(質) 公民館を使ったスマホ教室などもあるが、公民館は社会教育の施設である。公民館事業の中に取り入れてもらいたいと市から要請したなど、そういう事実はあるのか。あくまで公民館の施設のみを使用しただけということか。

(答) 令和5年度は、DX推進室主催で単に公民館を会場として借用し、開催した。令和6年度もそのつもりだったが、DX推進室と共催したい公民館があるとの情報提供があり、双方の思惑が一致すれば、スマホ教室の共催も考えている。

(質) 公民館は年間スケジュールが決まっている。生涯学習課を通じてのこととはいえ、公民館の主体的な活動ではなく、DX推進室に誘導されるような形でスマホ教室を公民館事業として行う形になったのではないか。

公民館は教育委員会の所管であり、線引きがあやふやなのでは。公民館は公民館で独自に事業を行うという枠組みがあるのに、市で実施することを公民館

事業の中に取り込まれているような実態があるのではないか。どういう経緯でそのようになっているのか。

(答) D X推進室は令和4年度に設置された部署であり、それまでの経緯は不明だが、令和5年度はD X推進室独自で開催した。その後、生涯学習課から、公民館長会議において「D X推進室でスマホ教室を開催するのであれば一緒にできないか」という意見があったとのことで、現在調整をしている。

(質) 公民館長会議とはいつだったのか。

(答) 令和6年2月5日月曜日の公民館長会議にて、ある公民館から「D X推進室でスマホ教室を開催するなら、公民館でも行っていきたい。内容が重複するなら、一本にまとめて開催することができたら。」という御意見があった。生涯学習課によると、令和6年5月24日金曜日に各公民館宛てに「D X推進室と一緒にスマホ教室を開催したい公民館があるか」という旨の照会をかけているところ。現在1公民館から希望が出ている。内容等が重複するなら、コラボなども考えられる。

(質) ナトぼたの情報発信プラットフォーム検討部会は、現在も定期的に行っているのか。

(答) 人事異動による部員の入替えをして再構成した。内容は、令和5年度は構築の内容について協議・確認を行ったが、令和6年度は機能拡張に向けて継続して協議いただく予定である。

(質) 1つ事例を挙げると、手話通訳の派遣や申請は、紙やF A Xで現在行っている。今どきスマホで行えるようにしたいという要望があったが、そういう話も取り上げてもらえるものなのか。

(答) 各課から要望が出されれば部会で検討する。

(質) なとりん号やなとりんくるにおいて、なとりコインの利用は今後可能になるのか。

(答) 令和6年4月に大新東株式会社に説明して協力をお願いをした。なとりん号はダイヤの関係で時間で動くので、なとりコイン導入には課題が多いが、なとりんくるなら可能かもしれないということで、社内で検討するとの答えをいただいた。課題があればその都度調整して、可能な限り、なとりんくるへのなとりコインの利用が実現するようにしていきたい。

(質) なとりコインのインセンティブ付与について、何日後に付与されるものなのか。

(答) 関係課、システム業者、商工会と検討中である。

(質) ナトぼたの令和7年度のダウンロード数目標は10%とのことだが、どのように設定したのか。もう少し高くすべきではないのか。

(答) 事業の財源はデジタル田園都市国家構想推進交付金を活用しており、そのKPIをロードマップでも同様に設定している。KPIの10%という数字については、先進自治体の情報収集を行った際に、茨城県つくば市でもナトぼたと同じシステム業者のアプリを入れているが、ダウンロード数は開始から数年で5%程度とのことだった。システム業者等から情報収集をする中で、このような自治体系アプリのダウンロード数は、20%いけば大成功と言われているとのこと。それを加味して、令和6年度は5%、令和7年度は10%とした。

(質) ナトぼたの業者は公募型のプロポーザル方式で決めるとのことだが、システムを作るための金額はいくらかかるのか。

(答) 令和5年度は委託料として支払った金額は1,800万円弱である。

(質) 実際にダウンロードしてみたが、イメージと違う。平成29年度に機能を1つにまとめたアプリを作ってはどうかという一般質問をした。こういうことにならないように等といろいろ注文をしていたが、まさにそのような方向に行ってしまった印象である。サービス一覧画面があるが、これは単に市で行っていることをここに集約した形ではないのか。ここに表示されているごみカレンダーがさんあ〜ると同じなのか定かではないが、市独自でこのシステム内のできるなら、さんあ〜るは必要なくなるので、さんあ〜るの予算を全部カットすることもできるのでは。せつかく1つにまとめているのなら、この機能の中に落とし込み、五月雨式で出できたアプリなどは全部廃止して一元的にコストカットすることが必要だと思う。それから、プッシュ通知機能はどこまでの範囲で連携しているのか。例えば、パブリックコメントのお知らせとかを載せてはどうか。団体向けのものは個人にはあまり関係ないので、載せる情報の精査が必要なのではないか。

(答) 先ほどKPIのお話でしたが、先進地でダウンロード数20%という状況である。今ネイティブアプリとして提供しているものを廃止してしまうと、ナ

トポタを入れていない人は、さんあ〜る等のアプリが使えないことになる。ナトポタの普及状況がネイティブアプリの普及状況とほぼ同じくらいまでいくのであれば、そういった統合やコスト削減も可能となり、市民の方の利便性向上にもつながると思う。アプリの統廃合はタイミングを見て行うもので、ただちに廃止という状況ではない。ナトポタの普及に力を入れつつ、全体最適を図りたい。

午後 2 時 4 0 分 再 開

○委員長（菊地 忍） 再開いたします。

以上で本日の付議事件は全て終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

大変お疲れ様でした。

午後 2 時 4 0 分 散 会

令和 6 年 5 月 2 7 日

総務消防常任委員会

委員長 菊地 忍